

# 平成 29 年度 事業報告

## I. 法人事業報告

### 1. 事業の概要

順正学園は昭和 42 年に創立して以来、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念に基づいて、特色ある教育、研究体制の充実に努めてまいりました。

平成 29 年度も、地域社会及び国際社会にも貢献できる学園づくりを目指し、国際交流、ボランティア、更にはスポーツ交流、産学官連携の事業にも積極的に取り組みました。各設置校においては、中期目標・中期計画の 2 年目（専門学校は 1 年目）にあたり、建学の理念の実現に向けた様々な教育研究の取り組みが実施されました。（詳細については設置校の報告に掲載）

国内外の教育提携・高大連携にも積極的に取り組んでおり、今年度は特に、インドネシア、イタリアをはじめとして 5 校 1 施設と協定を結び、海外の教育交流協定校は 27 か国 78 校 2 施設となりました。学生募集に関しましても、中国、韓国、ベトナム、インドネシア、スリランカから春入学、秋入学合わせて 71 名の留学生が入学しました。

また、順正学園 50 周年記念事業として平成 27 年度から開始した「順正デリシャスフードキッズクラブ」、「順正ジョイフルキッズクラブ」は、地域社会への貢献と同時に、建学の理念を具現化として、一歩掘り進み、多くの学生たちに参加してもらい真のボランティア精神を身につけ、社会に有意な人材にになりえるよう、その教育提供の場としての体制づくり、組織強化をいたしまして活動が一層充実して参りました。

昨年 11 月には岡山で、本年 2 月には延岡において本事業の協力企業や関係者を招き、報告会を開催し当事業の意義につきまして理解をさらに深めていただきました。

特にデリシャスフードキッズクラブにつきましては、利用者も増え、平成 30 年 3 月現在で岡山・宮崎両県の約 240 世帯が利用し、学園が用意した食品（24 トン）及び、個人・企業・団体様から寄贈された米やその他の食料品（7 トン）年間計約 30 トンを超える食料支援事業に育っています。

最後に、平成 29 年 8 月に、本学園と吉備ケーブルテレビをはじめとする地元企業などが出資して産学官の連携により高梁市に株式会社備中高梁まちづくり研究所が設立されました。この研究所は、アニメ制作を通して地域活性化を目指しており、オリジナルアニメの制作が計画されるなど、吉備国際大学アニメーション文化学部の教育研究にも新たな展開が期待されます。

## 大学の概要

### 2. 各設置校の入学者・学生数等の状況

単位（人）

	吉 備 国 際 大 学						九 州 保 健 福 祉 大 学				
	学部	通信学部	大学院 博士	大学院 修士	通信大学院 修士	通信大学院 博士	学部	大学院 博士	通信 学部	通信大学院 修士	通信大学院 博士
入学者	362	9	5	14	40	3	314	1	174	7	0
編入・再入学者	11	24	0	0	0	0	3	0	70	—	—
10月入学 (編入・再入学含む)	34	—	0	5	0	0	0	—	25	—	—
5/1 学生数	1,713	134	12	41	78	6	1,820	11	591	25	17
内留学生	150	—	1	13	0	0	16	0	0	0	0
卒業者	417	33	—	—	—	—	354	1	136	—	—
修了者	—	—	2	15	30	0	—	0	—	12	2
退学者	54	9	0	5	4	0	45	0	41	0	1
満期退学者	—	—	1	—	—	0	—	0	—	—	2
除籍者	3	5	0	1	0	0	5	0	31	0	0
休学者	36	14	0	0	1	0	48	0	39	2	1
留年者	63	26	0	2	5	0	153	2	108	6	12

単位（人）

	順正高等看護福祉 専門学校	九州保健福祉大学 総合医療専門学校	合 計
入学者	56	73	1,058
編入学者	0	0	108
10月入学 (編入・再入学含む)	0	0	64
5/1 学生数	175	239	4,862
内留学生	0	0	180
卒業者	61	76	1,078
修了者	—	—	61
退学者	11	17	187
満期退学者	—	—	3
除籍者	2	0	47
休学者	9	8	158
留年者	2	7	386

## II. 法人の概要

### 1. 理事・監事・評議員

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

区 分	定 員	現 員			備 考
		常 勤	非常勤	計	
理 事	9～13	4	7	11	
監 事	2	1	1	2	
評議員	27～32	23	5	28	

### 2. 専任教職員

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

	教員数	職員数	備考
法人本部	—	8	出向者等含む
吉備国際大学	152	64	
九州保健福祉大学	132	48	
順正高等看護福祉専門学校	18	6	
九州保健福祉大学総合医療専門学校	16	6	
合 計	318	132	

## IV. 各事業の概要

### 1. 設置関係

- (1) 入学定員及び収容定員の充足状況等を検証し、平成 29 年度中に以下の変更を行った。  
吉備国際大学大学院文化財保存修復学研究科の廃止  
吉備国際大学文化財学部の廃止
- (2) 吉備国際大学地域創成農学部醸造学科の設置  
平成 30 年 4 月開設 (平成 29 年 6 月届出受理)
- (3) 醸造学科の設置に伴い、平成 30 年度から以下の変更を行った。  
吉備国際大学地域創成農学部を吉備国際大学農学部に変更

## 2. 入試・広報活動

(1) 入試関係

2018. 5. 1(現在)

ア 志願者・入学者の状況

(単位 人)

区分	設置校	志願者	入学者	入学定員	充足率
一年次	吉備国際大学	827	382	610	59.3%
	九州保健福祉大学	920	296	515	61.0%
	順正高等看護福祉専門学校	68	49	120	46.7%
	九州保健福祉大学 総合医療専門学校	110	60	60	97.3%
	計	1,925	787	1,305	61.0%
編入学	吉備国際大学	12	10	30	16.7%
	九州保健福祉大学	6	6	13	23.1%
	計	18	16	43	18.6%
大学院	吉備国際大学	16	15	58	32.8%
	九州保健福祉大学	1	1	4	25.0%
	計	17	16	62	32.3%
(通信) 大学院	吉備国際大学	25	25	75	57.3%
	九州保健福祉大学	12	12	35	20.0%
	計	37	37	110	45.5%
	合計	2,007	856	1,520	57.5%

イ 設置校別の受験・合格・入学の状況

(ア) 吉備国際大学

(単位 人)

学部	社会科	保健医療福祉	心理	農	アニメ	外国語	合計
入学定員	160	180	90	90	40	50	610
志願者数	175 ( 45)	340 (202)	110 (63)	127 (21)	22 ( 4)	53 (30)	827 (365)
受験者数	172 ( 44)	325 (193)	106 (61)	125 (20)	22 ( 4)	48 (28)	798 (350)
合格者数	168 ( 44)	315 (188)	105 (60)	121 (19)	22 ( 4)	48 (28)	779 (343)
入学者数	123 ( 31)	121 ( 68)	45 (28)	50 ( 8)	14 ( 3)	29 (18)	382 (150)

( ) は女子内数

## (イ) 九州保健福祉大学

(単位 人)

学 部	社会福祉	保健科	薬	生命医科	合計
入学定員	105	170	180	60	515
志願者数	127 (54)	173 (91)	429 (273)	191 (125)	920 (543)
受験者数	127 (54)	173 (91)	423 (269)	190 (125)	913 (539)
合格者数	126 (54)	163 (89)	413 (264)	166 (112)	868 (519)
入学者数	64 (19)	67 (36)	110 (66)	55 (34)	296 (155)

( ) は女子内数

## (ウ) 順正高等看護福祉専門学校

(単位 人)

学 科	看護科	介護福祉学科	合計
入学定員	80	40	120
志願者数	52 (15)	16 (8)	68 (23)
受験者数	48 (13)	16 (8)	64 (21)
合格者数	48 (13)	16 (8)	64 (21)
入学者数	39 (11)	10 (5)	49 (16)

( ) は男子内数

## (エ) 九州保健福祉大学総合医療専門学校

(単位 人)

学 科	看護	合計
入学定員	60	60
志願者数	110 (15)	110 (15)
受験者数	103 (15)	103 (15)
合格者数	95 (12)	95 (12)
入学者数	60 (11)	60 (11)

( ) は男子内数

## (2) 広報関係

## ア オープンキャンパス

設 置 校	開催回数	参加人数
吉 備 国 際 大 学	8	1,317
九 州 保 健 福 祉 大 学	3	1,152
順正高等看護福祉専門学校	8	178
九州保健福祉大学総合医療専門学校	3	136

## イ その他

## (ア) 学園（各設置校）の魅力と入試情報の発信

年間を通じて、高等学校訪問、進学説明会、などに取り組み、学園（各設置校）の魅力学科改編に関する情報、入試要項など学生募集に関する情報を受験生、保護者、進路関係者などに周知した。

(イ) 海外留学生の確保

海外支局長が中心となり、中国・韓国・インドネシア・ベトナム・スリランカなどからの留学生の確保に積極的に取り組んだ。

その結果本学園における平成30年度各設置校の留学生の在籍・入学状況は次のようになった。

(単位 人)

設置校	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合計
吉備国際 大 学	在学生数								
	入学者数	42(42)	2(2)	1(1)	0(0)			1(1)	46(46)
九州保健 福祉大学	在学生数								
	入学者数	3(3)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(3)
順正高等看護 福祉専門学校	在学生数	6	0						
	入学者数	6(4)	0(0)						6(4)
合 計	在学生数								
	入学者数	51(49)	2(2)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	55(53)

※ ( ) 数字は平成30年度 支局長推薦入学者数

### 3. ボランティアセンター

(1) 吉備国際大学・順正高等看護福祉専門学校

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズ (DFK) クラブ】

○順正DFKクラブによる食料支援

- ・岡山で日本最初の孤児院を設立した石井十次が唱えた「満腹主義」の精神に基づき、生活困窮世帯の子ども達にお腹いっぱい食べさせることを目的に実施します。行政機関からの要請等により、岡山県内（高梁市・岡山市・倉敷市・総社市）及び宮崎県内（延岡市・宮崎市・日向市・高鍋町・門川町）に居住する、0～15歳の中学生以下の子どもを養育する生活困窮世帯を対象に、月1回、主食・副食・嗜好品を取り混ぜた食料の支援を行います。支援食料は学園が中心となって購入するほか、企業・団体・個人から、外箱の破損、返品、防災品の入れ替え等により、商品として流通しなくなったもの等を無償で寄付していただき確保していきます。
- ・H30年3月末現在、240世帯が利用。H30年度は総計で、のべ2,785世帯に配送を実施。順正学園が購入した食料品をはじめ企業・団体等から寄贈された米やその他食料品など計12回、30,283.1kgを配送しました。
- ・また、11月には岡山で、H30.2月には延岡において、本事業の協力企業や関係者を招いた報告会を開催し、当事業の意義について理解を深めていただきました。
- ・発送作業は主に職員と学生ボランティアが従事します。配送日までの合間は、学生たちとともに精米や袋詰め、段ボール箱の組み立て、賞味期限のチェックなどにあたります。29年度は、市民から食料品の協力を得るフードドライブもH29.12月～H30.1月に実施しました。

②災害復興支援セクション

- 東日本大震災・熊本地震被災者支援ボランティアの継続（ボランティア情報収集等継続中）
- 有事に伴う災害ボランティア復興活動・募金活動の実施（未実施。有事の際には開催）
- 災害ボランティア研修会・セミナー等の参加・開催（未実施。有事の際には開催）

- 災害ボランティアセンター設置・運営訓練等の開催（未実施。有事の際には開催）
- 備蓄物資仕分けボランティアの実施（公設国際貢献大学校）（未実施。有事の際には開催）
- 調査、研究の実施（随時実施）

### ③地域貢献セクション

- 高梁市、地元住民等からの要請に応えたボランティア活動の実施
  - ・本町地区「町家通りのひな祭り」（4月1・2日、高梁市本町地域で実施）
  - ・栄町商店街への活動支援（わくわく子どもフェスタ 21、手作り遊び教室）（6月17日、高梁市栄町商店街でわくわく子どもフェスタ 21 に参加。毎月第2土曜日、同所にて手作り遊び教室を実施）
  - ・「わっしょい高梁!!のびのびサロン」の開催（本年度は11月25日・吉備中央町大和地区、H30年2月12日・高梁市本町地区で開催） 等
- 吉備国際大学地（知）の拠点整備事業の一環として、教務課・地域連携室と連携した地域貢献ボランティア活動の実施（教務課・地域連携室の実施する授業に協力）
- 地域貢献ボランティアフォーラム（第18回ボランティア実践発表シンポジウム）の開催（H30年1月28日、吉備国際大学地の拠点 地域貢献ボランティアフォーラムとして開催）
- 要請組織へのボランティアの派遣（随時実施）
- 清掃活動や小学生ら登下校時の声かけ運動（毎週月曜日実施）
- 高梁警察署からの指導を受けて結成した「吉備国際大学ももパト隊」のボランティア活動において10月、社会福祉学科4年・定岡玖美が岡山県防犯協会長・県警本部長表彰を、看護学科4年・湯河佳子が高梁防犯連合会長・高梁署長表彰を受賞

### ④国際貢献セクション

- 国際協力ボランティア活動の実施検討  
岡山発国際貢献推進協議会との連携による各種活動（随時実施）

### ⑤障がい学生支援セクション

- 聴覚障がいを有する学生（2名）に対する授業時のノートテイク実施（遠隔システムを利用したノートテイクの導入）（春学期～1週あたり7講義、秋学期～1週あたり6講義で実施。いずれも増減あり。1講義につき、原則2名のノートテイクを配置）
- ノートテイク支援に関する業務（入学宣誓式・学位授与式など学内行事で実施）
- ノートテイク養成講座の開催（希望者に対して随時開催）
- 「ICTを活用した情報保障の高度化についての研究」の実施（学生を対象にしたノートテイク養成のためのトレーニングシステムサイト構築 等）
- 障がい学生支援に関する情報収集と他機関、他大学との連携を強化（随時実施）

### ⑥活動支援

- 関係機関・団体との連携
  - ・岡山県ボランティア・NPO活動支援センター（ゆうあいセンター）、県内他大学ボランティアセンターとの連携を強化（研修合宿、交流会等の開催）（交流会等を中心に連携を実施。岡山理科大学科学ボランティアセンターとは、学生スタッフ同士の相互訪問や交流を12月に実施）
  - ・全国のボランティアセンターとの交流・セミナーへの参加（9/4.5、大阪市内での大学ボランティアセンター学生スタッフセミナーに参加）
  - ・高大連携校との連携を強化（シンポジウムを中心に実施）
  - ・高梁市、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト等との連携を強化

(H30年2月、倉敷市内で国際ソロプチミスト高梁と他大学のボランティアグループとの交流会を実施。DFK関連では、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミストから寄付・寄贈をいただくとともに、作業のボランティアでも連携を実施)

- ・吉備国際大学ボランティアプレート(KVP)における学内ボランティア団体との連携を強化(随時連携)
- ・順正DFKクラブとして、県内及び全国規模のフードバンク団体・協議会等との連携を強化(随時実施)

#### ⑦広報・啓発

○広報誌の発行(4月に新入生歓迎特別号を発行。11月、H30年2月にはDFK・JFK関連の活動状況報告会に合わせた冊子を作製)

○HP、facebook等による情報発信

順正DFKクラブHP <http://volcen.kiui.ac.jp/jei-dfk/>

順正学園ボランティアセンターHP <http://volcen.kiui.ac.jp/index.html>

同 Facebook <https://www.facebook.com/jei.volcen/> を随時更新中。

## (2) 九州保健福祉大学・九州保健福祉大学総合医療専門学校

### (1) 子ども支援セクション

#### 【順正デリシャスフードキッズクラブ(DFK)】

引き続きフードドライブを実施する。

→フードドライブ用のファイバードラムを常設し、提供品の募集を行った。

#### 【順正ジョイフルキッズクラブ(JKC)】

昨年度は15回実施したが、今年度は20回の実施を計画している。また、学生ボランティアや教職員ボランティアの確保など実施体制の強化を図り、継続可能な実施体制づくりを行う。

→延岡市委託事業「ひとり親家庭等学習支援事業」として、貧困家庭の中学生に対し、月2回、土曜日に本学会場にて、本学の学生ボランティアと共に、午前中は学習支援を行い、午後から調理実習と昼食会を開催している。現在31名の中学生が登録しており、平成29年度は18回を実施し、毎回約12~15名の中学生が参加した。

### (2) 地域貢献セクション

ボランティア要請に基づき、地域の各行事に学生を派遣する。

→各所から要請のあったボランティアに対し、学内で募集を行い、学生を派遣している。大学共通基礎科目に開設する「ボランティア活動」科目の履修登録者は52名で、延べ507名が参加した。

### (3) 障がい学生支援セクション

障害者差別解消法に基づき、障がい学生に対する合理的配慮について対応検討する。

→①健康管理センター：専門資格(臨床心理士等)を保有する専任教員がカウンセラーとして当番制で相談業務を行っている。また、看護師の有資格者を常時配置している。年度初めの健康診断の際に障がいの有無ならび障害者手帳だけでなく、障がい等による支援要請があった学生に対して、個別にサポートしてほしい内容等の確認が取れる体制をとっている。

→②教務課：視覚障がい者に対して、移動式の書画カメラを貸し出している。また、対象者の授業準備等に配慮し、所属学科・学年の授業教室を原則固定化する配慮を行っている。また、「ボランティア活動」や「障がい者に対する支援と障がい者自立支援制度」といった科目を開講し、大学教育の一環として、支援者の育成に努めている。教職員を対象としては、第1回全学FD・

SD 研修会「障がいのある学生の修学支援」と題して 8 月 30 日に研修を行った。

- ③学生課：障がいを理由に駐車許可申請を行った学生に対して最優先に許可を行っている。また、障がいの度合いによっては講義棟の近くに駐車できるよう配慮を行っている。
- ④キャリアサポートセンター：求職者登録の際、障がい者枠での受験の可能性の有無を確認、就職手帳へ障がいのある学生の就職についての記載、相談、支援の希望情報は健康管理センターからも提供。これらから、主に個別面談により相談、求人情報提供等を行いハローワークとも連携を図っている。また、障がい者雇用関連機関との連携、情報交換にも努めている。
- ⑤入試広報室：学生募集において入学試験で特別な配慮を必要とする場合は、状況に応じた対応が出来るよう事前に相談を受け付ける体制を整えている。
- ⑥大学：バリアフリー、多目的（多機能）トイレ、手すり、点字ブロックを設置している。また、肢体不自由で自家用車通学の学生ならびに送迎者（保護者など）には専用の駐車スペースを設けている。

#### 4. 国際交流関係

##### A. 教育交流協定の締結

1. 2017 年 5 月 19 日 タイ タイ商工会議所大学と教育交流協定を締結
2. 2017 年 5 月 25 日 イタリア ボローニャ大学と教育交流協定を締結
3. 2017 年 7 月 20 日 スペイン バレアレス諸島大学と教育交流協定を締結
4. 2017 年 12 月 1 日 タイ サイアム大学と教育交流協定を締結
5. 2017 年 12 月 18 日 インドネシア プア・パルディユガン・カラン大学と教育交流協定を締結

##### B. 教育交流協定校への学生派遣

###### 1) - 1 短期研修

大 学 名	期 間
米国 ライト大学	2017 年 8 月 25 日(金)～2017 年 9 月 12 日(火) 吉備 2 名 派遣済
米国 フィンドリー大学	2017 年 8 月 25 日(金)～2017 年 9 月 12 日(火) 九保 1 名 派遣済
イタリア ボローニャ大学	2018 年 3 月 11 日(日)～20 日(火) 吉備 9 名、九保 1 名、引率教員 1 名 派遣済
台湾 南台科技大学	2017 年 8 月 13 日(日)～26 日(土) 吉備 1 名 派遣済
フィリピン 国立大学ロスバニョス校	<del>2017 年 9 月中旬から派遣予定</del> (九保大のみ) 中止
韓国 湖西大学	2017 年 8 月 17 日(木)～ 8 月 27 日(日) 吉備 1 名 派遣済

###### 1) - 2 短期研修（吉備国際大学外国語学部のみ）

派 遣 先	期 間	人 数
ベトナム Quy Khanh 日本語学校	2018 年 2 月～4 月	3 名 派遣済
カンボジア ソルテイ・ロ・アンコール FC	2018 年 2 月～3 月	1 名 派遣済
フィリピン 3D アカデミー+テレネット	2018 年 2 月～3 月	6 名 派遣済
オーストリア SV ホルン	<del>2017 年 8 月～9 月</del>	<del>1 名</del> 中止

2) - 1 短期留学

大 学 名	期 間	人 数
米国 フィンドリー大学	2017年8月～1年間	吉備国際大学 1名 派遣中
米国 ハワイ大学ヒロ校	2017年8月～2017年12月 2017年8月～2017年12月	吉備国際大学 1名 派遣済 九州保健福祉大学 1名 派遣済
台湾 南台科技大学	2017年9月～2018年1月	吉備国際大学 1名 派遣済

2) - 2 短期留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人 数
米国 ニュージャージーシティ大学	2017年8月～12月 2018年1月～3月 2018年1月～5月	1名 派遣済 1名 派遣済 1名 派遣済
米国 ハワイ大学ヒロ校	2017年8月～10月	1名 派遣済
アイルランド マリーイマキュレート大学	2017年8月～9月	4名 派遣済

3) 短期交換留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人 数
米国 フィンドリー大学	2017年8月～12月	1名 派遣済
米国 ニュージャージーシティ大学	2017年9月～12月 2018年1月～5月	1名 派遣済 1名 中止
米国 オハイオ州立ライト大学	2017年12月～2018年5月	2名 派遣済
米国 ハワイ大学ヒロ校	2017年8月～12月	1名 派遣済
カナダ モホークカレッジ	2017年7月～8月	1名 派遣済
カナダ ニューカレドニア大学	2017年8月～12月	2名 派遣済
イギリス サンダーランド大学	2018年1月～5月	1名 中止
スペイン サンジョージ大学	2017年8月～12月	1名 中止
ロシア シャウレイ大学	2018年2月～6月	2名 派遣中
台湾 致理科技大学	2017年9月～2018年1月 2018年2月～6月	1名 派遣済 3名 派遣中
韓国 釜山外国語大学	2018年2月～6月	2名 派遣中

4) 編入学(九州保健福祉大学のみ)

大 学 名	期 間	人 数
フィリピン国立大学ロスバニョス校	2017年4月～4年間 (継続中)	5名

C. 教育交流協定校からの学生受入れ

1) 短期研修

大 学 名		人 数	期 間
米国	ニュージャージー シティ大学	25名	2017年5月11日(木) 受入済
米国	フィンドリー大学	6名	2017年6月26日(月)～ 2017年7月19日(水) 受入済
	ライト大学	10名	
ブラジル	パラナ・カトリナ大学	6名	
	パラナ連邦大学	5名	
中国	黃岡師範学院	未定	2017年7月末～10日間中止
タイ (九州保健福祉大学のみ)	タマサート大学	14名	2017年7月末～2週間予定
	キンモンタート工科大学	7名	2017年7月末～2週間予定

2) 短期留学 (吉備国際大学のみ)

大 学 名	期 間	人 数
台湾 台湾 南台科技大学	2016年9月～1年間	2名 受入済
韓国 清州大学	2017年4月～半年間	2名 受入済

\*南台科技大学、清州大学は相互の交換

3) 短期留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人 数
台湾 致理科技大学	2017年4月～半年間	1名 帰国済
	2017年10月～2018年3月	1名 帰国済
台湾 国立嘉義大学	2017年10月～2018年2月	2名 帰国済
ベトナム ハノイ貿易大学	2017年10月～2018年2月	1名 帰国済
韓国 釜山外国語大学	2017年4月～2018年2月	1名 帰国済
	2017年10月～半年間	1名 中止

4) 短期交換留学 (九州保健福祉大学のみ)

大 学 名	期 間	人 数
米国 フィンドリー大学	2017年10月～1年間(継続中)	1名

5) リサーチインターンシップ

大 学 名	期 間	人 数
オランダ バーク応用科学大学	2017年10月～12月	1名 帰国済

D. ライト大学仕事体験プログラム学生受入れ (吉備国際大学のみ)

期 間：春学期 1名 (受入済) 秋学期 1名 (受入済)

E. 客員教授受入れ (リトアニア共和国 シャウレイ大学)

期 間：5月11日～5月25日

## 5. 施設設備関係

29度の主な施設・設備関係は下記のとおりです。

【主な施設・設備関係一覧】 (建物・構築物・車両等)

法人本部	農学部醸造学科校舎新築	280,754(千円)
	農学部醸造学科機器備品	178,253(千円)
	教育交流会館改修工事	9,300(千円)
吉備国際大学	空調設備改修工事(9号館・国際交流会館)	20,100(千円)
	7号館等環境整備工事	7,861(千円)
	温室(植物工場)整備工事	58,320(千円)
	教室リプレイス4号館・10号館	7,070(千円)
	アニメーション文化学科実習室	9,500(千円)
九州保健福祉大学	空調設備更新工事(1号棟・2号棟)	76,500(千円)
	液体クロマトグラフ	27,794(千円)
	情報処理室及びLL教室機器整備	23,300(千円)
	シャワー室整備	2,700(千円)
	水銀灯照明LED化工事	3,351(千円)
順正高等看護福祉専門学校	空調設備改修工事(1号棟)	12,000(千円)

## I. 平成29年度教学基本方針

吉備国際大学では、「中期目標・中期計画」第2年度計画を達成するため、教育、研究および社会貢献に関する取り組みを行う。特に、次のことを今年度の基本方針とする。

- (1) 学部・学科および研究科は、3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を踏まえて第2年目の中期目標・中期計画を確実に実行し、地域創成に実践的に役立つ人材の養成に邁進する。同時に、教育・研究・社会貢献活動、特に研究の成果情報を入学希望者に対して積極的に発信する。
- (2) 国家試験合格率および就職率の向上と退学者の減少を達成するため、教職員一丸となり協働して改善改革策に取り組む。学生の学修意欲を支える学生の目線に立った「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎を重視して創意工夫を凝らした」指導に徹する。
- (3) 「地の拠点整備事業」の最終年にあたり、改めて、地域社会の中核となる大学として、地域に根ざした課題研究に取り組むことで、的確な知識・情報の収集と論理的な思考力を育む教育を重視する。引き続き、「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する大学」をビジョンとして、平成29年度私立大学研究ブランディング事業の獲得を目指し、地域創成農学部を中核とした事業計画を作成・申請する。  
→平成29年度私立大学研究ブランディング事業に採択された。
- (4) 平成29年度中に教職課程全てが再課程認定を受けることに対する万全の準備を関係部署・学科を中心に行い申請書を提出する。{カリキュラムの策定（6月）、再課程認定説明会（7～8月）、事前相談（10月～H30年2月）、申請書提出3月}
- (5) 学生の学修環境を整えることに努め、安全・危機管理対策およびコンプライアンスの徹底を行う。

## II. 各事業の概要

### 1. 教育関係

- (1) 懇切丁寧な学修支援体制により、退学者の減少を図る。
  - ① 新入生および在学生のオリエンテーション内容の充実と見直しを行い、履修指導を徹底し、卒業要件や資格取得要件を確実に満たせるよう指導する。  
→新入生には新入生オリエンテーション時に、情報処理室を利用し、履修登録指導を実施したことで、履修登録や授業のスタートがスムーズに行えた。また、在学生（1年生を含む）については、昨年度より秋学期オリエンテーションを実施しており、ゼミ、チューターによる成績や履修科目の確認など、きめ細かな指導を行った。
  - ② 「GPA 制度に関する規程の運用方法」に基づき、成績不振学生に対し、保護者面談など保護者と連携しながら、一人ひとりに懇切丁寧な学修指導を行い、成績の向上を図る。  
→年度当初にGPAにより成績不振学生をリストアップし、学科ごとに対象学生に対し、保護者面談などの対応を行った。また、その後、春学期の成績を確認し、指導を継続して行き、一部の学生については成績の改善が見られた。また転学科などの指導についてもあわせて行った。

③ラーニングサポートセンターの学修支援体制の取り組みの見直しを行う。

「キビキビサポートコーナー」の相談内容、方法を再検討し、学生のニーズにあう内容に変更し、相談者の増加を図る。

また、学修支援としての特別講座などの充実と参加者の増加を目指す。

→新たな学修支援として、看護学科などの基礎学力向上のために、大学院生を活用しての補習授業を実施した。今後は、初年次教育として、また就職対策に向けての基礎学力向上のための学修支援に重点を置いた取組を行う方向で見直しを図ることとした。

④学修環境の整備の実施

アクティブラーニングやグループワークが可能な可動式机・椅子教室の整備を実施するとともに、グループ学修や予習復習のための施設確保と開館時間延長など、学修時間を増加し学修能力の向上を図るために、学修環境の整備を実施する。

→4号館422教室(90席)、10号館10319教室(72席)、7号館712・713教室(各48席)を可動式机・椅子に入れ替え、簡単に机を移動し、アクティブラーニングやグループワークができる教室を整備した。

(2) カリキュラム変更と内容の充実

①完成年次を迎える外国語学部外国学科およびアニメーション文化学部アニメーション文化学科、また昨年度専門科目のカリキュラム変更を見送った地域創成農学部(平成30年度より農学部)地域創成農学科のカリキュラムについて見直し、社会や受験生のニーズに対応するとともに、学生がより興味を持って学修に取り組めるカリキュラムへの変更を行う。

→外国語学部外国学科、アニメーション文化学部アニメーション文化学科、農学部地域創成農学科、大学院心理学研究科心理学専攻博士(後期)課程について、カリキュラムの見直しを行い、平成30年度よりカリキュラムの変更を行った。また新しく国家資格として誕生した「公認心理師」の受験資格に対応し、大学院心理学研究科臨床心理学専攻(修士課程)および心理学部心理学科についても平成30年度よりカリキュラム変更を行った。

②平成29年度より全学的にスタートした「地域学概論」と「地域貢献ボランティア」について、円滑に実施し、内容の充実を図る。特に地域貢献ボランティア活動に全学生が取り組むよう、「地域学概論」の授業用として、新たに南あわじ志知キャンパスの地域貢献活動を録画した視聴覚教材を作成し、学生にボランティア活動の魅力を発信する。

→平成29年度より全学的にスタートした「地域学概論」は高梁キャンパス259名、南あわじ志知キャンパス27名の受講者があり、地元高梁市や南あわじ市などの協力を得て円滑に実施することができた。また、昨年度制作した地域貢献ボランティア活動の視聴覚教材を「地域学概論」の授業で使用し、学生にボランティア活動の魅力を伝えるとともに、各キャンパスの図書館にもこの視聴覚教材を設置し、教職員や学生が視聴できるようにした。さらにこれに加え、平成29年には南あわじ志知キャンパスの地域貢献活動の視聴覚教材の制作も行った。

(3) 国家試験等対策に全学的に取組み、全ての国家試験の合格率を全国平均以上とする。また教員採用試験についても、教職センターを中心にデータの分析や学生への情報提供を積極的に行い、対策講座の実施などにより合格者の増を図る。

→学科ごとに国家試験対策に向けた模試の実施や補習を実施するとともに、大学全体では、国家試験勉強に集中できるように演習室の確保やラーニングサポートセンターや図書館の開館時間の延長などを行った。結果としては、看護師および理学療法士については合格率が全国平均を上回ったが、その他の資格については全国平均を下回った。

- (4) 留学生の教育指導体制の充実を図り、日本語能力試験N2の合格率をさらに向上させる。  
→N2を取得していない留学生については、日本語関連科目Iの授業では能力別のクラス編成にし、徹底したN2対策の授業を実施した。留学生にもN2に必ず合格しなければならないという意識が根付いてきており日本語の学修意欲も向上してきている。また必ず日本語能力試験を受験するよう指導し、未手続者にはチューターやゼミ担当教員、留学生課から受験するよう指導した。
- (5) 教育関連情報データの収集と分析（IR）  
GPAデータや履修状況データの定期的な提供、教職関連実績データの整備などを積極的に行い、教員の履修指導をサポートする。また、学園IR推進室と連携し、収集したデータを整理し、学生や教職員に情報提供できるように検討していく。  
→4月にGPAデータによる成績不振者のデータ提供を各学科に行い、さらに春学期成績確定後には対象者の成績データの状況分析などを実施し学科に提供して継続的な学修指導に役立てた。
- (6) 教職課程の再課程認定の準備をすすめ、平成30年3月に申請を滞りなく行う。  
(通信制を含む)  
→文部科学省からの法令の改正通知、コアカリキュラムの提示、申請様式の配布が遅れたため、提出期限が平成30年4月29日までに延長されたため、2月の事前相談を経て、通学制、通信制、大学院の必要な課程について、平成30年4月13日に滞りなく申請書類の提出を行った。

## 2. 通信教育関係

- (1) 効率的な募集活動を実施し入学者数の増加を図った。
- ①入学説明会の会場を増やしたことについての広報を効果的に行い、説明会への来場者増加を目指した結果、昨年度より参加者が増加した。
  - ②入学生アンケートによりインターネットを経由して入学してくる学生が多いことから、本年度はインターネット広告、特にリスティングを中心に広報を行った。
  - ③岡山駅前キャンパス、高梁キャンパス、広島市内で行っていた通信単独の入学説明会について、入学者が多い高松(香川県)、福山(広島県)、松江(島根県)、松山(愛媛県)で新たに入学説明会を行った。また、私立大学通信教育協会の合同入学説明会において、東京会場、名古屋会場、大阪会場、岡山会場、福岡会場へ参加をして、広域的に募集活動を行った。
- (2) 学生の満足度を向上させることで退学者を出さない体制を構築した。
- ①学修相談会を新たに高梁会場、岡山会場、広島会場の3会場で開催し、参加した学生から好評を得た。
  - ②教員と事務職員が協働で、より丁寧な学生対応を行うことにより、学生満足度を向上させた。
  - ③教員免許状を取得し、さらに教員採用試験に合格するために、新たに通学制と合同で教員採用試験対策講座を行った。通信教育部からは3名の参加者があり、参加者は全員教員採用試験に合格した。
  - ④キャリアサポートセンターと協力し、就職に関する情報をWEB学修支援システムより提供した。

### 3. 研究関係

個々の教員及び研究組織による研究の活性化を促進する。

- (1) リサーチパーク研究発表会などによる県内での研究連携を推進する。  
→リサーチパーク研究発表会で発表を行った。
- (2) 共同研究費を効果的に配分し科学研究費の新規採択件数を7件以上に増やす。  
→科研費の新規採択は6件であった。
- (3) 文科省補助金「私立大学等改革総合支援事業 タイプ3(産業界・他大学等との連携)」の獲得のために産業界・他大学等との連携協定を結ぶなどの対策を進める。  
→岡山大学と研究用設備・機器の共同利用に関わる協定を結ぶために、学内規定の制定作業を開始した。
- (4) 大学院組織(通学制5+通信制5+研究所3)の連携強化と教育研究活動の活性化のために、附属研究所を活用し、吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催する。  
→吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを大学院説明会と同時開催した。
- (5) 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」や「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」など文部科学省から示された新しい指針の学内周知と教育研修を実施する。さらに本年度は動物実験外部検証を受ける。  
→動物実験外部検証を受け、その指摘事項に対して対策を講じている。
- (6) JSTの教員研究業績登録システム **researchmap** に全教員の教育研究業績を9月末と3月末に登録する。博士論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開する。  
→全教員の教育研究業績を9月末と3月末に登録し、博士論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開した。

### 4. 就職・進路指導計画

#### 1) 就職目標 100%

- ・学生の卒業後の進路希望について全学生を把握し、第一希望の進路が決定できるような情報収集に力を入れ、的確な支援を行う。

→平成29年度就職率 97.5%

キャリアサポート委員との連携により、各学科の進路希望状況および就職内定・決定状況を早期に把握することで各学生に応じた的確なサポートを行うことができた。就職を強く希望する学生については年度内にほぼ全ての学生が内定を得ることができたが、平成29年度の就職率(就職希望者に占める就職決定者の割合)は97.5%であった。就職未決定者については卒業後も本人・保護者と連絡を取り合い、年度を越えてサポートを継続している。

#### (2) 卒業者数に占める就職希望者数の割合目標 90%以上

- ・大学へ進学した目的をキャリア開発等の講義の中で明確にして、大学卒業後の就職について意欲を持たせる。

→平成29年度就職希望率 86.3%

学生のキャリア意識を高め低学年時からも就職に向けての準備が円滑に行えるようキャリア開発Ⅰ・Ⅲの講義や各種就活イベント等の開催による情報提供および日々の学生面談等でのサポートを行ったが目標値を未達成であった。卒業後の速やかな就職が困難である学生(まずは卒業が最優先で就労意欲に乏しい)や大学院・公務員浪人を選択する学生が一定数いたため、次年度以降はより早期からの学生状況把握、第一希望の進路決定へ向けてよりきめ細かいサポートを実践し、併せて留学生へのサポートも強化していきたいと考える。

(3) 岡山県内（高梁・岡山キャンパス）・兵庫県内（南あわじ志知キャンパス）への就職率 40% 以上。

・大学が所在する地元事業所の魅力について、地元の各団体等と協力しながら、県内外の学生へ発信する。

→平成 29 年度岡山県内（高梁・岡山キャンパス）就職率 40.4%、兵庫県内（南あわじ志知キャンパス）就職率 29.3%

地方大学として地方創成・貢献の観点から、地元就職の重要性を部署内で共通認識することで、各キャンパスでの就職サポートを行った。地元の各団体等とも連携することで地元企業・施設・病院等の情報、住環境面で魅力等を積極的に学生へ発信した。兵庫県内（南あわじ志知キャンパス）への就職率については目標値を未達成であったが、地域創成農学科は卒業生全員の進路が決定した。（平成 29 年度卒業生 44 人：大学院進学 3 人、就職者 41 人）

## 5. .その他の事業

現在、地元高梁市及び南あわじ市では、人口減少問題を深刻に受け止め、人口動態の将来推計に関する共同研究などを進めると共に、地域創成に向けた多面的な取り組みにより、一層の連携事業を展開していきたい。南あわじ志知キャンパスでは、地域の要請にこたえ六次産業化を総合的に研究・教育し、これらの知見と実績を生かし、地域創成に寄与するとともに、本年度計画されている私立大学研究ブランディング事業にも応募する。

また、学内の一層の改善改革を目指して、教員・事務職員・学生が一体となって以下の取り組みを実施する。

①空調機の稼働、節電、節水等の啓蒙を推進する。

→昨年度同様、全体の省エネ推進活動として、「環境マネジメントシステム（EMS）」活動を実施し、環境負荷削減の取組を行っている。

平成 28・29 年度に 20 年を経過した空調機の改修を行い、消費電力の約 4%の削減が行えた。

なお、購入電力の入札を行い新電力販売会社「イーレックス」より「テプコカスタマーサービス」・「岡山電力」（2 月 1 日より）の 2 社に変更し更なる料金削減を行っている。

また、2 ヶ月毎に「省エネレポート」を作成・掲示して光熱水費の管理・啓蒙を行った。

②挨拶、清掃、交通事故防止を中心としたマナー教育を推進する。

→挨拶運動と清掃活動をボランティア学生と F C 吉備国際大学シャルムが高梁駅前にて毎週月曜日の朝 7 時より約 30 分間実施している。

交通事故防止に関する交通マナー教育として、硬式野球部の 1 年生約 50 名を対象とした、警察主催による二輪車の運転実技指導を 6 月に実施した。

③岡山キャンパス、南あわじ志知キャンパス、高梁キャンパスの学生間の交流を深めるため、学友会主体のイベントを企画し積極的な参加ができるようする。

→各キャンパスにおける学生間の交流を、今年度は南あわじ志知キャンパスで実施した「くにうみ祭（学園祭）」へ、高梁キャンパスからは学友会執行委員会が高梁を PR するための模擬店への出店参加、岡山キャンパスからはストリートダンスサークルがステージへの参加と、くにうみ祭スタッフのボランティアとしての参加を行った。

④留学生と日本人学生との交流活動の内容を見直し、充実を図る。

→留学生と日本人学生の交流を深めるため、8 月 3 日に広島県への交流旅行（宮島見学）を実施した。また、12 月 10 日には香川県でのうどん作り体験及び金刀比羅宮見学を実施した。

⑤各種行事、イベントに関して、在学生、同窓会、教員、事務職員が一体となった取り組みを行う。

→12月8日～25日の期間に同窓会と学友会の協力の下、学内でのクリスマスイルミネーション点灯を実施した。点灯初日には、クリスマスイルミネーション点灯式として多彩なイベントを企画・開催して盛り上げた。

# 九州保健福祉大学

## I. 平成29年度教育方針

今年度は本学の中期目標・中期計画（平成28年度～30年度）2年目にあたり、計画に則り、入学後の基礎科目から卒業研究までを通して自ら考える力を高め、学生自身の能力を最大限に引き出し、社会から高く評価される人材に育てることを目標に、以下の教育方針を策定した。

- (1) 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成できない。したがって、授業科目の一部にアクティブラーニングの積極的導入を推進する。ただし、本学は、国家資格を目指す学科が多く、受け身であっても膨大な知識の集積を可能とする系統講義も不可欠である。従って、アクティブラーニングの推進は、従来の系統講義を否定するものではない。
- (2) 本学でのアクティブラーニング導入により学生の考える力を高める重点教科として、全学科において卒業研究を指定しそのレベルアップを目指す。また、卒業研究のみならず基礎・専門教育の理解には国語力が求められるため、低学年での国語教育の取り組みが求められる。そこで、e-learning システムの積極的活用を全学で実施する。

## II. 各事業の概要

### 1. 教育関係

- (1) 本学にとって中途退学の防止は喫緊の課題である。中途退学者の最多の退学理由が学力不足であることから、全学科において入学後のリメディアル教育の充実に引き続き取り組んでいく。特に、e-learning システム等を活用することによりレポートを書くための国語力向上を目指し、さらには専門書を読む力をつけさせる。
  - 全ての教科の理解において国語力が不可欠であることから、全学科において国語力向上のための e-learning システム活用によるリメディアル教育を実施しており、一部の学科では授業にも取り入れ積極的に活用した。また、入学直後及び中間期である前期末及び後期末に、全学統一試験（国語）を実施し学修成果の分析を行った。年間を通じて、学修成果を分析することで、次年度の学修に向けたさらなる活用や学修成果の可視化へ取り組みの検討材料とした。
- (2) 昨年度の国家試験の結果を分析し、各種国家試験合格者を全国平均よりも上位を目指す。さらに、余裕をもって国家試験対策に取り組めるように検討を行う。また、在学生のみならず、既卒者への国家試験合格に向けての指導も継続して行う。
  - 新卒者の国家試験合格率が全国平均を上回っていない学科について、様々な要因を分析し、さらに合格率が高まるよう検討を継続する。また、既卒生で希望者を対象にした国家試験対策受講生の受入れを継続して実施した。
- (3) 大学改革推進委員会と IR 推進委員会及び学園 IR 推進室との連携により大学教育改革に取り組むとともに、学生の教育にあたって、全学的な FD・SD 体制を構築し、FD・SD 研修会を実施することで学生教育の一層の充実を図る。
  - 大学改革推進委員会では、「障害のある学生の修学支援」と題して8月30日に全学的な FD・SD 研修会を開催し、グループワーク及び発表を行った。また、IR 推進委員会では、全学生を対象とした学生の現状把握を目的に、学生アンケート調査を実施し、学生生活の状況につ

いて分析を行った。

- (4) 学修環境及び支援体制を充実させ、きめ細かいサービスで学生満足度の向上を目指す。学生対応窓口が手狭なこともあり、学生が気軽に相談できる体制を新たに整備する。また、今年度から義務化される SD 研修会についても積極的に実施し、学生支援体制の充実、強化を図る。

→学生相談及び歓談スペースについては、教務課及び学生課の窓口に近い場所に学生が気軽に利用できるカウンターテーブルを設置し、貸し出し用のタブレット端末5台を整備し、学修環境及び支援環境を充実させ、相談等に活用できるよう整備した。また、SD 研修会については、今年度参加した GAKUEN システムのユーザー研修会で得た情報を学内研修会において全学的に情報共有を図った。

- (5) 南海トラフにより予想される巨大地震等の災害に備えて、日頃から防災対策に取り組み、危機管理意識を高めるとともに、資材及び食料品、飲料水等を備蓄して有事に備える。
- 危機管理や防災意識を高める目的として、新入生にオリエンテーションでの防災教育及び携帯型の『大地震マニュアル』を配布した。また、11月1日には宮崎県民一斉防災行動訓練「みやざきシェイクアウト」に大学として参加し、12月6日には消防署の協力により防災訓練を実施した。

## 2. 通信教育関係

- (1) 社会福祉士国家試験受験希望者に対して、通信教育部在学学生のみならず既卒者及び通学制在学学生・既卒者を対象に「国家試験対策講座」を実施し、また、国家試験の過去問題を配付するなどし、合格率の向上を目指す。

→通信教育部在学学生、卒業生及び通学制の在学学生を対象に、「国家試験対策講座・基礎編」を平成29年9月23日(土)～24日(日)の2日間開講した。さらに、平成29年12月16日(土)～17日(日)の2日間に「国家試験対策講座・直前編」を開講した。

- (2) 授業アンケートを実施し学生の満足度の向上に努めるとともに、前年度に引き続き学習相談会を開催し在学学生のサポートを向上させる。

→全てのスクーリングにおいて授業アンケートを実施し、学生の授業満足度の向上に努めている。また、毎年9月、12月及び3月の年3回、九州各地において学習相談会を開催し、在学学生のサポートをした。

## 3. 研究関係

教育研究に寄与するため次の事業を推進していく。

- (1) 科学研究費補助金等の申請について

積極的に文部科学省の科学研究費をはじめ、競争的資金制度に申請するように奨励する。本年度の新規の科学研究費補助金の採択者は7件であり、継続者を入れると24件、ここ5年間は次の表のとおりである。今後はさらに採択者の増加を目指し奨励していく。

科学研究費 継続・新規採択件数

(単位：件)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
継続	11	16	21	18	17
新規	10	8	6	7	7
合計	21	24	27	25	24

→平成 29 年度は、9 月 28・29 日に科研費公募要領等の説明会を開催し、平成 30 年度に向けた科学研究費の応募件数は 63 件であった。平成 27 年度をピークとして昨年度 69 件と年々減少しているため、引続き科学研究費への応募を奨励した。

また、生命医科学部では、科学技術振興機構（J S T）の戦略的創造研究推進事業の「C R E S T」に採択となり、本年度の委託研究費として直接経費 950 万円、間接経費 285 万円を獲得した。

(2) 個人研究費について

引き続き、研究業績に呼応した配分方法を実施する。

→前年度に引き続き、研究業績に呼応した配分方法を実施した。さらに、使用目的の厳格化を図るためにマニュアルを整備している。

(3) 助成経費について

共同研究費の内訳として研究経費助成と地域創生事業経費助成を設け、研究活動の助成を行う。研究助成経費は教員の研究活動の推進を図り、地域創生事業助成経費は延岡市周辺の地域創生事業での社会貢献活動を目的とする。

申請者に対しては公平に審査、配分を行い、研究活動並びに地域貢献活動を推進する。

→研究経費助成については、科研費の審査結果を中心に審査を行い、応募件数 13 件のうち 8 件を採択した。また、地域創生事業経費助成については、応募 5 件すべてを採択した。

(4) 外部資金導入の促進について

補助事業、委託事業、寄付事業など、外部からの助成金等を積極的に受け入れ、教育研究を推進するとともに、それを通じて社会貢献に寄与する。

→現在、推進事業（C R E S T）1 件、業務委託 5 件、受託研究 4 件、共同研究 2 件、特別寄付 15 件を受け入れている。

#### 4. 就職・進路指導計画

(1) 入学時から卒業までを通した支援、特に低学年次からのキャリア意識の醸成のため、全学年に向けた情報発信や来室を促す仕掛けづくりをする。公務員採用試験説明会、インターンシップの情報提供やワークルールの説明会、マナー講座、OB/OG との懇話会など多様な企画をし、年度を通して実施する。

→低学年時から薬剤師としての様々な働き方や業界についての情報を得ることを目的に、薬学科 3 年生を対象とした「薬剤師の仕事説明会(7/1)」を本学薬学棟で開催し、病院、薬局、血液センターなど 31 事業所に参加いただいた。その他全学的には、社会人マナーやコミュニケーション能力の向上を目的とした「キャリアアップセミナー(7/5)」、就職や職業選択の意識づけに繋がる「就職情報サイト登録説明会(12/15)」を実施した。その他には、来年度就職対象学生に対し就職ガイダンス（生命科学部 1/22、動物生命薬科学科 1/25、社会福祉学部 1/26）を実施し就職活動における基本的マナーや活動スケジュール等について説明した。学生への情報提供については、ユニバーサルパスポートによる積極的な発信に加え、掲示板を有効活用し、正確かつリアルタイムに情報を提供することができた。

(2) 各学科のキャリアサポート委員との連携を図り各種就職イベントを企画し、就活年次早々には、就職ガイダンスを実施して求職登録をさせる。学生が病院や福祉施設、企業の人事担当者と直接話のできる「就職面談会」を、社会福祉学部 4 年生、動物生命薬科学科 4 年生を対象に 7/8 本学会場、保健科学部 4 年生を対象に 10/31 福岡会場、11/7 宮崎会場、薬学科 5 年生を対象として 3 月に本学薬学部棟で実施する。就職面談会以外に

も事業所と学生のマッチングの機会として、個別の企業・病院説明会を学内において適宜開催する。さらに、事業所の方々と本学教職員との情報交換を行う「順正学園就職懇談会」を9/22岡山で開催する。採用いただいた病院・福祉施設・薬局・企業等へは職員が適宜事業所訪問を行い、採用御礼とともに、継続して求人依頼に取り組む。また、来年度に就職対象年次をむかえる生命医科学部を対象とした求人情報収集、求人開拓、学生への進路希望調査などを早期に行い、一期生の就職活動が円滑にスタートできるようサポート体制を整える。

→就職面談会を計画通り開催し多くの事業所の採用ご担当者様に参加いただくことができた（本学会場 77 社、福岡会場 42 社、宮崎会場 25 社の参加）。9 月 22 日に岡山で開催した「順正学園就職懇談会」では、全学科から担当教員が参加し、職員と共に事業所の方々と情報交換等を行った。また、今年度、就職対象年次となった生命医科学部については、全国の臨床検査関係機関へ第一期卒業生の案内状（1,654 件）を郵送するなど、学部と連携して就職支援準備を進めている。

- (3) 就職希望者の就職率 100%を目指すとともに、数値目標だけでなく、個人指導重視の支援を通して学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう質の高いキャリアサポートをする。そのために個別指導重視の就職支援を一層すすめると同時に就労意欲の希薄な学生を少しでも減らせるよう、就職部門として可能な限りの連携・協力を行う。その上で学生が自主的に考え活動することができるように導くサポートを重視し、学生が自身のキャリアを自身で描けるように促す。また、地方都市にあっては専門性を生かせる優良な職場としての公的機関への就職を促進する。

→日常業務の中では、学生との対面個別面談に最も重点を置き、進路相談、履歴書・エントリーシートの添削指導、面接練習等を行っている。面談は予約制とし、4 月から 3 月までの個人面談件数は延べ 1,310 件（うち履歴書等添削 656 件、模擬面接 596 件、その他の相談 63 件）を実施した。学生の希望状況等により、地元ハローワークとも連携して支援に取り組んでいる。また、公的機関からの求人情報等は、ユニバーサルパスポートにより対象学生への周知を積極的に行っている。

## 5. その他の事業

- (1) 本学の独自色を強く打ち出しブランド化を推進するための研究を全学的な優先課題として位置づけ、私立大学研究ブランディング事業に申請して取り組む。具体的な研究内容は、宮崎県産食品に含まれる種々成分から健康増進に寄与する有効成分（健康増進成分）を抽出し定量分析する技術を研究する。その分析結果を元に、成分に関する情報や健康増進成分を保持する調理法を全国の消費者に提供するシステムを構築する。さらに、生産者の健康増進成分を豊富に含む宮崎県産食品の開発を支援する。これらにより「薬食同源の研究拠点」を形成し本学・地域のブランディングを図る。

→平成 29 年 6 月に私立大学研究ブランディング事業として、事業計画書「『薬食同源』の研究拠点形成－宮崎県産食品中の健康増進成分分析技術研究と高機能食品開発・販売支援－」を文部科学省に提出したが、採択には至らなかった。

また、「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 1～5 について申請したが、タイプ 1「教育の質的転換」、タイプ 2「地域発展」のみ選定された。

- (2) 国が進める「地方創生」を踏まえ、地域との連携事業を推進する。

主な取組として、宮崎県との連携により、引き続き東九州メディカルバレー構想の推進を図る。宮崎大学との連携により、3 年目をむかえる地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に取り組む。延岡市との連携により、受託事業である「発達支援シ

システム実践事業」や「定住自立圏フィールド調査事業」を実施するとともに、地方創生加速化交付金により延岡市が取り組んでいる「東九州（延岡・佐伯）バスク化構想」に協力する。また、昨年度に引き続き延岡市立図書館と本学附属図書館との連携強化を図る。

→東九州メディカルバレー構想推進のため、臨床工学科において今年度も宮崎県と連携して『平成 29 年度東九州メディカルバレー医工連携ステップアップ事業』の事業である「海外展開支援コーディネーター設置業務」に取り組んでいる。また、この関連事業として、「医療関連技術と医工連携開発機器のパッケージによる産学官海外展開支援」について今年度新たに取り組んだ。更に、関連事業として、国立国際医療研究センターが募集する「医療技術等国際展開推進事業」にも応募し、今年度も採択となり取り組んでいる。宮崎大学との連携では、事業 3 年目となる「みやざきCOC+（プラス）」について、サブコーディネーター（宮崎大学雇用）のキャリアサポートセンター配属が年度途中で終了し、各関連の部署内で対応した。

延岡市との連携事業としては、「発達支援システム構築事業」、「定住自立圏フィールド事業」に取り組んだ。

更に延岡市とは、サフラン等を研究・開発を進めることによって、地域経済の発展に寄与することを目的とする「薬用作物等に関する連携協定」を 12 月 11 日に締結した。

(3) 延岡市教育委員会との共催である「のべおか子どもセンター」を開催し、親と子どものコミュニケーションづくりや家庭及び地域の子育て機能に貢献していく。

→例年どおり、延岡市教育委員会との共催により「のべおか子どもセンター」に取り組んでいる。

(4) 延岡市から依頼を受けて実施している「のべおか市民大学院」を年間 11 回と本学が開催する公開講座を 6 回開催する。

→延岡市から委託を受けて実施している「のべおか市民大学院」を 11 回実施している。その中で、特に今年度実施した学外研修は、高千穂町観光協会で猫びんアート作成を行い、受講生に好評であった。また、本学が開催する「公開講座」も、社会福祉学部の教員により 6 回実施し、延べ 137 名の受講生が集まり、受講生に好評であった。

(5) 本学附属図書館では、延岡市立図書館において本学附属図書館との共同企画展示を行うなど、図書館相互の連携強化を図っており、平成 29 年度もこの事業を継続する。また、平成 28 年度に附属図書館内に整備したラーニング commons の認知度を高め、アクティブラーニングと連動させ、学生が共に学び成長できる場としての附属図書館の積極的な活用を推進していく。

→28 年度に引き続き延岡市立図書館との連携事業として、共同で延岡市立図書館に於いて「認知症とからだの老いを考える」というテーマで企画展示を 2 回行った。(第 1 回 平成 29 年 10 月 17 日(火)～29 日(日)、第 2 回 平成 30 年 2 月 6 日(火)～3 月 2 日(金))。また、第 2 回の企画展示にあわせて 3 月 2 日(金)にラーニング commons に於いて、かねてより、延岡市立図書館から依頼のあった「認知症サポーター養成講座」を実施、延岡市立図書館職員 19 名を含む 35 名が受講した。

ラーニング commons の利用者は年々増加しつつあり、平成 29 年度は 201 件、延べ 1,673 人の予約利用実績があった。最も多く利用されたのがゼミ学習会 (129 件)、次いで授業 (52 件) であった。学外者に対しては、学内見学の際に可能であれば、見学コースに附属図書館を組み込み、今日の大学図書館の姿を広く知ってもらうようにしている。

(6) 平成 29 年 11 月 10 日(金)、本学 20 周年記念事業を行った。

# 順正高等看護福祉専門学校

## I. 平成29年度教育方針

建学の理念の具現化を目指して、以下の教育活動を展開する。

1. 受験生の増加を計り、入学定員を確保する。
2. 中途退学者0名、留年生0名をめざす。
3. 卒業生全員が国家資格を取得し、希望する進路に進める。
4. 学生の自律・自立を促す教育実践を行う。
  - (1) 平成30年度改正を視野に入れたカリキュラムの見直しを行う
  - (2) 講義・演習・実習へと進化する学習体系に適応できるよう、種々の工夫を学生視線で構築する。
  - (3) 教員の能力・資質向上のための学習や研修を計画する

## II. 各事業の概要

### 1. 教育関係

- (1) 基礎学力強化を図るため、各学年における教育課題を明確にし、一貫した指導と実践評価を行う

→看護学科

学年運営計画をもとに各学年の教育課題について一貫した指導を行う為に適宜、学年会議を設け情報の共有化と評価を行っている。また、新たに学力対策委員会を立ち上げ、会議を行い学生指導に当たった。

→介護福祉学科

一貫した指導を行うための会議を毎週木曜日開催して、情報の共有化を図った。

- (2) 学外講師の意見や助言、示唆を尊重する

→看護学科

授業中の学生の状況を把握するために、可能な限り学外講師と情報交換しながら、学生指導にあたった。また、5月19日に講師連絡会議を開き、学外講師間と本校教員の情報交換を図るとともに、対策についての討議を行った。

→介護福祉学科

講師連絡会議(5月19日)を開き学外講師と本校教員の情報交換を行った。特に、個別対応が必要な学生について、目標を設定した支援体制を整えた。

- (3) 保護者と密な連携をとり、ともに学生を支える関係を作る

→看護学科

保護者とチューターの信頼関係を構築するように努めている。教育後援会(本校、地方3会場)の個別懇談、戴帽式(1年)後の個別懇談の他にも、必要に応じて保護者との面談を行った。メンタル面での問題に対しては、精神の専門教員が面談をし、保護者とも連携をとりながら、支援を行った。

→介護福祉学科

保護者と必要に応じて3者面談を実施した。

(4) 学生には丁寧な説明を心掛け納得・合意が得られるよう関わり、信頼関係を育てる。  
→教員一人一人が、授業や実習、ホームルーム、個人面接等を通して、その都度学生への説明と同意を得ながら物事を進める努力をした。また状況により、学年団や役職教員が関り調整した。

(5) 低学力の学生には、個別指導・補講・学習の仕方などの教授を計画的に行うと共に小さい成功体験を重ねるよう企図する

→看護学科

1年：高校までの基礎学力の向上と解剖生理学と基礎看護技術の知識の強化を図るために、毎朝10分間のテストを行った。また、国語力向上を目指し、夏季休暇を利用し、医療系ニュースについて調べレポートにした。

早期から、国家試験を意識付けるために、スマホでできる「Nプラス」を利用し、国試問題に取り組んでいる。教員がリアルタイムにPCで実施状況を把握し、個別指導を行った。

2年：生活習慣の見直し、学習習慣確立・定着の為にレコーディング法（学習経過記録の記入）を実施した。解剖生理―病理―看護のつながりを学ぶ病態生理の学習会を土曜日に2回（4月8日呼吸器、5月20日糖尿病）実施した。

また、前期は、週1回の小テスト（必修問題 目標Ⅲ、目標Ⅳ）の内容を実施した。国家試験への動機づけと学習意欲の向上を目指し、昨年の看護師国家試験の抜粋問題を4月に、必修模擬試験を9月に実施した。

後期は、日々の授業と定期試験から確実に単位を取得し臨地実習に臨めるよう支援した。

3年：実習中は学内日の金曜に30分の小テストを実施し、実習終了後は毎朝実施している。毎日4限には、その日の授業内容のテストを実施し、80%に到達しない学生は、20時まで学内で学習させている。月末の1時間目には、1か月分の朝テストの重要項目をピックアップしたテストを実施した。

業者の模擬試験（必修含む）は、年間8回、学内模試を1回実施した。

学力別学習支援体制を模擬試験結果により11月12月1月2月と修正しながら行った。成績下位層対象に領域別レクチャーを行い、補講を行った。また、教室内に看護用品などの展示し視覚教材を有効に活用した。

学習環境としては、20時まで毎日教員が巡回し、指導できる体制を整えた。

1～3学年を通してできていることは、リアルタイムに誉めるよう心掛け、成功体験を学生が実感できる関りをする努力をした。

→介護福祉学科

1年：授業で学んだ内容を振り返ることが出来るように、次の授業でミニテストの実施やドリルを利用し知識の定着ができるようにした。

2年：毎朝小テストを実施した。間違った箇所は自分で調べさせ、その後、対策授業でまとめを実施した。配布資料はノートに貼り、独自のノート作りを行う。ノートは毎週月曜日に提出し、確認後、チューターが個別指導を行った。12月以降は国家試験対策授業を時間割に組み込み、学習体制を整えた。

共通：デリシャスフードキッズクラブの梱包・発送作業に毎月参加して、継続的なボランティア活動の必要性と社会参加の意義が理解できるようにした。

## 2. 研究関係

- (1) 看護教育評価を行い、学術コンファレンス等への投稿に取り組む  
→継続して教育評価を行い、来年度に向けたレビュー作成につないでいる。
- (2) 学会、研修に各自 2 回以上は参加し、看護・介護教員としての能力・教育力の向上が専門職者育成に寄与できるよう努力する  
→看護学科  
各教員が看護協会主催の教員継続研修会、各領域の学会、研修会、国試験対策セミナーに参加し、教育力向上に向け自己研鑽に努めた。  
→介護福祉学科  
各教員がセミナーや研修会に参加し、教育力向上に向け自己研鑽に努めた。
- (3) 学生が持つ問題や課題を学生自身が解決できるような教員のかかわりについて事例検討を通して学ぶ  
→看護・介護福祉学科共通で、外部講師を招き、教員研修会を開催した。  
平成 29 年 6 月 3 日（土）テーマ：「学生の理解、学生とのかかわり方」  
今後も継続して研修会を実施し、事例検討も行う予定である。

## 3. 就職・進路指導計画

- (1) 看護学科・介護福祉学科共に最高学年を対象に進路ガイダンスを数回実施し、将来の目標、適性等考慮して自己の進路決定、選択ができるよう指導する。  
→看護学科  
進路ガイダンス（4 月・5 月）を実施した。進路希望調査（第三希望まで）をとって具体的な就職指導を行った。  
→介護福祉学科  
新卒ハローワークに登録を行い、自己分析。適性検査などを実施した。（9 月 29 日、10 月 13 日、10 月 20 日）学生の希望に沿った就職指導を実施した。
- (2) 履歴書の書き方、小論文の書き方、面接要領等を具体的に指導する  
→進路ガイダンスでは、外部講師による就職活動の進め方と履歴書の書き方の指導を行った。また、教職員による個別指導の他にも、ハローワーク相談員による個別対応（予約制）を行った。
- (3) 現場で活躍している先輩、施設長、実習指導者に体験等を話してもらい、プロとしての生き方、考え方から自分の将来をイメージし、就活の参考にする  
→本校卒業生に体験や入職時の様子を語ってもらい、就職後の自分がイメージできるようにした。
- (4) 学園主催の就職懇談会に参加し、参加した施設関係者との繋がりを大切にする  
→平成 29 年 9 月 22 日の就職懇談会に参加した。

#### 4. その他の事業

- (1) 中期目標の進捗状況を適宜確認し、施策等を実行する。  
→両学科及び事務にて、目標達成に向けた施策を順次実行している。
- (2) 校舎（教室・実習室、図書室等）の老朽化への対処、設備整備の更新を行い、教育環境を整える。  
→空調機器の入れ替えを行った。教室（2か所）の視聴覚機器を更新した。
- (3) 老朽化の進む学生寮（たかはし寮）を段階的に整備し、入寮者の増加を図る。  
→エアコン、洗濯機、乾燥機の不具合が最も多く、その都度、修理、交換を行った。  
寮生はH29年度13人から、H30年度20人に増加した。

# 九州保健福祉大学総合医療専門学校

## I. 平成 29 年度教育方針

### 【 学校全体の目標 】

1. 鍼灸学科のカリキュラムを改訂し、「美容鍼灸」「スポーツ鍼灸」などを組み込む。
2. 学生の到達度別の指導体制を強化する。
3. 国家試験合格者を全国平均超えに維持する。
4. 市民を対象とした公開講座を始める

## II. 各事業の概要

### 1. 教育関係

#### (1) 看護学科

1. 入学定員充足率 100%を維持する。
  - 1) 県内の高校及び実習施設に本校の特色を理解していただくため、事務室と連携し、学校紹介に繋がる行事やイベントに積極的に参加しPRする。
  - 2) 実習施設と連携を密にし、在校生だけでなく就職している卒業生の勤務状況等の情報を集めるとともに適宜対応することで、本校の社会的評価や信頼度を高め受験生の獲得率を高める  
→事務室と連携し学校紹介に繋がる行事、高校のイベント等に参加しかつPRし、充足率は100%を維持できた。
2. 国家試験合格率 100%を目指す。
  - 1) 1年次から弱点強化を図り、学生個々の能力に応じた指導を徹底する。
  - 2) 各学年運営の指導計画を立案し、段階的に知識が習得できる具体的な方法を示す。
  - 3) 学生の学習意欲を高め、心身共に安定した状態で国家試験に臨むことができるよう支援する。  
→以下の様に実践し国家試験合格率 100%を達成することができた。  
各学年担当が主となり学年の指導案を立案し、本案に基づいて指導した。外部講師から学生の学習到達度等の情報を得、学習目標に到達するべく学習支援を実践した。  
低学年も国家試験模擬試験を受けさせるなど、早期から国家試験対策を実施した。  
教員間で学生情報を共有し、成績やメンタル面で気になる学生に適宜対応するとともに、保護者と面談を随時行い、保護者と協力して国家試験対策を実践した。
3. 実習、国家試験を想定した講義を実践し、実習目標の達成、全国模擬試験の最低偏差値 45 以上を目指す。
  - 1) 国家試験の出題傾向を押さえた講義、実習指導を実践する。
  - 2) 看護技術の習得のため、指導内容、指導方法を精選していく。
  - 3) 成績下位の学生支援を重点的に行い、ボトムアップする。  
→模擬試験について学校全体では、ほぼ毎回全国上位を維持できたが、全ての学生の偏差値が 45 以上になったのは数回しか達成できなかった。しかし成績下位の学生には試験後、個別的に指導しボトムアップに努めた。

4. 各自研修会等に参加し、講義、実習指導の教育力向上を目指す。
  - 1) 学生の主体性、満足度、理解力を引き上げるために、教育方法その他について外部研修を受講する等して教育力向上を目指す。  
→教員各自が自発的かつ計画的に研修会やセミナーに参加し、終了後は教員全員で復命書や資料を回覧し、知識を共有することにより、看護学科全体として教育力を向上させた。

## (2) 鍼灸学科

1. 全国平均以上の新卒者国家試験合格率を目指す。
  - 1) 卒業生や先輩鍼灸師の講義を実施し、学生の受験へのモチベーションを高める。  
→美容鍼灸、スポーツトレーナー等学生の関心が高い分野の専門家に特別講義をしてもらい、学生のモチベーションを高めた。本年度、これとは別に2つの特別講義を実施した。
  - 2) 頻繁に模擬試験を実施し、結果を基にチューターによる個別指導を徹底する。  
→月1回のペースで模擬試験を実施しその都度学生を指導したが、全体的に成績が伸び悩んだ。
2. 教学の立場から入学者の定員充足を目指す。  
→本学科は平成30年度から学生募集停止となったので、2)については実施した。
  - 1) 効果的、効率的で、特色あるカリキュラムを作成する。
  - 2) 市民向けの公開講座を実施する。
  - 3) 6月以降、毎月見学会を実施する。

## 2. 事務関係

### (1) 事務室

1. 入学定員充足率100%を目指す。  
→入学定員充足率100%を達成した。
2. 入学志願者数を増加に転じる。
  - 1) 社会人向けの広報の充実に努める。特に鍼灸学科。
  - 2) 入試広報室との連携を強化し教職員全員で広報する。  
→教職員全員での広報を心がけたが、入学志願者数は110人(昨年度158人)と減少した。
  - 3) 教員とともに教育的イベント等に積極的に参加し、両学科をアピールする。  
→教育的なイベント等に積極的に参加した。
  - 4) 学校アメニティの向上(全館無線LAN対応達成等)をPRし、志願者増に繋げる  
→学校見学会などでPRに努めた。
  - 5) 市民を対象とした公開講座の実施  
→8回シリーズの公開講座(鍼灸)を実施した。また外部団体(鍼灸)による公開講座を実施した。
3. 退学者数の更なる減少。最終的に0を目指す。
  - 1) 問題を抱える学生について教員と事務職員とで情報を共有する。
  - 2) 学生及び保護者との面談の更なる充実に努める。
  - 3) 教学面以外で問題がある場合、事務職員との面談の実施に努める。  
→退学者数は17名(昨年11名)と増加した。
4. 適正な予算執行
  - 1) 教職員の経費削減意識の醸成のため、毎月の教職員会議で執行状況を報告する。
  - 2) 定期的に予算の執行状況を確認し、支出の削減に努める。  
→無駄を省く意識の醸成に努めた結果、教育の質を下げることなく経費を削減した。

5. 両学科の国家試験対策の支援。看護学科は国試合格率 100%の維持、鍼灸学科は合格率全国平均以上
- 1) 両学科と学生情報を共有するとともに、積極的な窓口指導を実施する。
- 看護学科は新卒 62 名、既卒 1 名全員(既卒不合格者は当該学生のみ)が合格し 100%を達成した。鍼灸学科は新卒、既卒ともに全国平均を下回った。